



1989 春の特別展 「東灘の歴史」展 解説資料

# 東 灘 歴 史 ノ 一 卜

## <目 次>

はしがき

東灘小史	1
旧御影町史跡散歩	2
旧住吉村史跡散歩	5
旧魚崎町史跡散歩	7
旧本庄村史跡散歩	9
旧本山村史跡散歩	11
年表でみる東灘と日本の歴史	13

## <はしがき>

本書は神戸深江生活文化史料館において開催される1989. 春の特別展「東灘の歴史」展の解説資料として制作したものです。

1889年4月1日、神戸市が産ぶ声をあげ誕生しました。また、この時東灘区の前身である旧五ヶ町村も同時に誕生しています。それから、今年の4月1日でちょうど百年。このような、神戸市、また、東灘区にとっても時代の大きな節目となる年に今一度、わたしたちの街の歴史を振り返ってみようと特別展を企画しました。

本書ではわたしたちの街の歴史を簡単に振り返り、街かどに残る史跡の紹介をしています。このような小冊子ですが、身近な街の歴史を知ろうというかたがたのお役にたてれば幸いです。

最後になりましたが、本書を制作するにあたっては東灘区役所広報相談課に多大なるご協力を頂戴しました。深く謝意を表します。

平成元年4月

神戸深江生活文化史料館

望月 浩・道谷 卓

# 東 灘 小 史

はじめに

東灘区は神戸市の最も東南に位置し、東西約5 km、南北約8 kmを擁する区である。北に六甲の山々が、南には大阪湾が広がるという地形が夏は涼しく、冬はおだやかであるという気候を作り出している。

先史・古代の東灘

住吉東ノ平から先土器時代の石器や本庄・北青木遺跡からは縄文時代の遺物が発見されている。原始時代から東灘は南向きの、水も豊かな生活に適した場所であったと思われる。

弥生時代になると水稻耕作が始まり、東灘でも赤塚山遺跡からもみあとのついた土器が発見されるなど農耕生活の跡がうかがわれる。又、渦ヶ森・森・生駒からはそれぞれ銅鐸がみつかり金属器の使用を示している。

農耕生活の発展は貧富の差を作り出し、小国家の成立を導いた。その中で成長した豪族たちは3世紀以来、自らの権威を誇示せんがため大きな古墳をつくるのであった。東灘でも処女塚・東求女塚・ハボソ塚などの古墳が築かれた。

4世紀の半ばには大和政権が日本を統一し、氏姓制度をもとに豪族を支配していった。東灘でも、大和連・雀部朝臣・住吉朝臣などの豪族の名がみられ、先ほどの古墳もこうした豪族の手によるのであろう。

7世紀になると大化改新をへて律令制による中央集権的国家を作ろうという動きが活発となる。律令制によれば東灘は摂津国菟原郡に属し葦原・佐才・住吉・覚美の各郷に分けられた。

奈良時代にはいと律令制も動揺しはじめ、荘園が出現するのである。法隆寺領の水田や、平安時代には山路荘の名もみられる。

中世の東灘

政治の担い手が貴族から武士へと変わり、その中でも平家が政権をとった。その平家と源氏が古代から中世への節目となった源平の争乱を戦いこの東灘もその舞台となった。平家物語や源平盛衰記などの文学作品には雀の松原・御影といった地名が登場し、一の谷の戦いでは源範頼がこの辺りに陣を張ったという。

鎌倉から室町時代への移行期である南北朝時代には湊川の戦いが行なわれ、楠木正成が東灘を通過して湊川へ向かい、その戦いで敗れた新田義貞は処女塚で足利軍と一戦を交えた。その後

將軍となった足利尊氏は内紛で弟直義と観応の擾乱をおこし、両者は打出・御影浜で戦った。このような戦乱の中、この地方の土豪は平野城や山路城を築いている。

戦乱の中、農民たちの結束も固まり郷村ができ、東灘にも郡家・住吉・野寄・岡本・田辺・北畑・小路・中野・森・石屋・横屋・田中・東明・御影・魚崎・西青木・青木・深江といった村々が戦国時代の末にはできあがった。

近世の東灘

織田信長のあと天下を統一した豊臣秀吉は檢地を行ない、天正の頃東灘はほぼ全域が豊臣家の直轄地となった。

豊臣氏が徳川幕府に滅ぼされると、幕府は東灘を天領とせず、尼崎藩に組み入れた。江戸時代には農村であった東灘も京・大坂に通じる街道筋のため、産業が発達した。水車業・御影石の切り出し・酒造業などが盛んに行なわれた。

この産業の発展した東灘に幕府は注目し、1769年に明和六年の上ヶ地令を出し、東灘南部の主だった村々を天領にするのであった。

近・現代の東灘

幕府が滅亡し明治政府になると、東灘の旧天領の村々は兵庫県となりその他はそのまま尼崎藩が支配した。廃藩置県で尼崎藩は尼崎県となり、後に兵庫県に吸収された。1874年には神戸・大阪間に鉄道が開通し住吉駅が開業している。

1889年、市制・町村制が施行され、神戸市及び東灘区の前身、御影町・住吉村・魚崎村・本庄村・本山村の東灘旧五か町村が誕生した。その後、近代化に伴う交通機関の発達で東灘は大阪・神戸の郊外住宅地として発展していった。

1938年の阪神大水害、1945年の大空襲で大きな損害をこうむった東灘も、町の復興で戦後が始まった。

そんな中、神戸市からの合併誘致が五か町村を走り、1950年4月1日まず御影・住吉・魚崎の三か町村が神戸市に合併し、ここに東灘区が誕生したのである。そして、半年後の10月10日に残りの本庄・本山の両村も合併し、現在の区域になった。

こうした街に現在、約19万人の人々が生活をし、未来への町づくりを進めながら、新しい時代に飛躍しようとしている。

(道谷 卓)

## 旧御影町史跡散歩

(旧御影町＝明治22年4月1日に石屋・東明・平野・御影村が合併して御影町に。昭和25年4月1日に神戸市に合併。)

### ① 一里塚橋(御影中町7丁目)

西国街道沿いの一里塚があったところ。江戸時代には、街道の一里ごとに一里塚が築かれていた。この辺りでは、芦屋の津知・脇浜につくられていたという。たいていは、9畝四方、高さ3畝の塚の上に榎の木を植えたものであった。道の両側にあるのが原則であった。

### ② 西国橋(御影石町3丁目)

西国街道は、元々山陽道といい、平安時代には京の都と九州大宰府を結ぶ幹線道路であった。江戸時代に西国と畿内を結ぶ交通路として栄え、西国街道の名で親しまれてきた。その名が西国橋に残っている。

### ③ 徳川道起点(御影石町3丁目)

徳川道は、慶応3年(1867)に兵庫開港に際して、外国人と日本人の接触を避けるため、西国街道のバイパスとしてつくられた。全長約34kmで、御影―柚谷―摩耶山―一小部―藍那―白川―高塚山―大蔵谷の路線である。しかし、ほとんど利用されることなく翌年1月には、三宮で神戸事件がおこっている。(この事件で切腹した滝善三郎の墓が東灘区森の墓地にあった。)徳川道は、同年8月、廃道になった。

### ④ 処女塚古墳(御影塚町2丁目)

南向きの全長70畝の前方後方墳。古墳時代前期に築かれた。芦屋の美しいひとりの娘をめぐって、立派な若者2人が争い、やがて3人とも死んでしまう悲しい伝説がある。また、「太平記」には小山田太郎高家の処女塚の上の戦いぶりがのっている。小山田高家は、従軍中に付近の農家の妻を刈り取ったために、軍法で死刑を宣せられた。しかし、義貞が高家の陣を見ると軍備は整っているが食料の貯えがないように見えた。そこで「武將に兵糧の不自由をさせたのは私の責任だ」と妻の代金を畑の持ち主に支払った。そして、妻を高家に渡した。このことがあってから高家は、深く恩義を感じ、処女塚の奮戦につながったといわれている。

### ⑤ 沢の井(御影本町4丁目)

この沢の井に、神功皇后が化粧のため、姿を映したために御影の地名が出たといわれている。また、後醍醐天皇に村人がこの沢の井の水を使ってお酒を献上したところ、たいへん喜ばれて、それから献上した村人は、「嘉納」の姓を名のりはじめたと伝えられている。この沢の井の南あたりに、枳殻(カラタチ)の垣で囲まれた“枳殻御殿”というところに神功皇后が住んでいたといわれている。

### ⑥ 中勝寺(御影町郡家)

文安年間(1444～1449)に創建。浄土宗知恩院末。本尊は阿弥陀如来。永正2年(1505)に平野秀満が祖先の備前守忠勝の菩提寺とし、平野山忠勝寺とした。その後明和4年(1767)に火災にあい、再建されたときに平野山中勝寺と改称した。

⑦ 平野城（御影山手）

南北朝時代に赤松範資の家臣平野氏の居城であったと伝えられている。大手筋・滝が鼻・城ノ前などの地名が城のあったことをしのばせる。

⑧ 香雪美術館のキリシタン灯籠（御影町郡家）

戦国時代の大名であり、茶人でもあった古田織部の創案といわれている。その特徴は、

- ・ 竿の部分が四角である。
- ・ 台石をとみなわず、地面に埋め込んでいる。
- ・ 竿の上部がふくらみ、わずかに十字形になっている。
- ・ 竿の中央下部に、舟型光背に彫りくぼめ、立像が陽刻されている。
- ・ ふくらみの部分にローマ字に近い記号が陰刻されている。

⑨ 菅公船繋ぎの松（御影石町2丁目）

昌泰4年（901）菅原道真が大宰府へ向かう途中に、船を繋いだ松だといわれている。現在は綱敷天神のお旅所になっている。

⑩ 綱敷天満神社（御影町石屋）

旧石屋村の氏神。祭神は菅原道真。大宰府へ向かう途中で菅原道真が、この地に休息をしたとき、土地の豪族の山背というものが石の上に綱を敷いて席を設けてもてなした。後に道真が神として祀られるようになってから、その子孫の菅原善輝がこの地に道真を祀り、故事にちなんで今の社名にしたと伝えられている。須磨の綱敷天神にもこれと同じような伝説が残っている。

⑪ 西方寺（御影本町6丁目）

浜街道沿いにある浄土真宗本願寺末の寺。本尊は阿弥陀如来。境内には有名であった「御影の松」を歌った歌碑がある。

「世にあらば又帰りこむ津の国の御影の松よ面かはりすな」 藤原基俊

「よみ置きし松のことはのちりうせずふたたび千代のかけぞ栄えむ」 藤原正房

⑫ 住吉ステーションの碑（御影本町1丁目）

明治14年6月に嘉納治良平・豊田為介によって建てられた道標。表面に、「従是住吉ステーション迄九丁四十五間」と刻まれている。明治の初め、鉄道が計画されたとき、当初は浜辺を通る予定であったが、酒造家に「汽車の出すゴヘラ（煙）で酒がくさる」と反対され、山麓部に変更した。しかし、そこには何本もの天井川が形成されていたために、川底トンネルを掘らなければならなかった。そこで、外国人技師たちが難工事の指導をした。トンネルが掘られ、鉄道が大阪―神戸間に開通したのは、明治7年のことである。

⑬ 東明八幡神社（御影塚町2丁目）

旧東明村の氏神。祭神は応神天皇。東明の地名は、神功皇后の大臣武内宿禰がここから遠目に見ながら魚崎の造船の指図をしたため遠目と呼び、それが東明になったといわれている。また、朝鮮遠征の帰り、ここまできたときに夜が明けて東の空が白みはじめたので東明の名がついたといわれている。なお、境内に「武内の松」と呼ばれる、武内宿禰が植えたといわれている松の株がある。

⑭ 浜街道の名残（御影本町6・8丁目）

西国街道は、京都から西へ向かっていくと芦屋の打出あたりで2本に分かれる。北側の道は、ほ

ぼ国道2号線沿いに通り、南側の道は43号線沿いに通り、生田神社の南側付近で合流する。2号線の西国街道は大名の参勤交代の通る道であった。江戸時代の中頃にその名がついたといわれる43号線沿いの街道は浜街道と呼ばれた。庶民の通る道としてバイパスの役目を果たしてきた。

⑮ 弓弦羽神社（御影町郡家）

旧郡家村の氏神で、祭神は伊弉冉尊・速玉男尊・事解之男尊。社伝によると、朝鮮より帰国の神功皇后に対して、謀反を企てた忍熊王がこの地に軍を置いて戦勝を祈り、その背山に熊野権現を勧請したのが縁起とされる。また、神功皇后が朝鮮に向かうときに東明の北方の丘陵で、弓矢を試しに射たのでこの名がついたともいわれている。

⑯ 御影標柱（御影本町4丁目）

大正2年に建てられた。この御影の標柱は、他の村にある道路元標と違い、明治40年代から大正3・4年頃までの間に兵庫県によって建てられたもの。神戸・尼崎・西宮・神崎への距離が刻まれている。

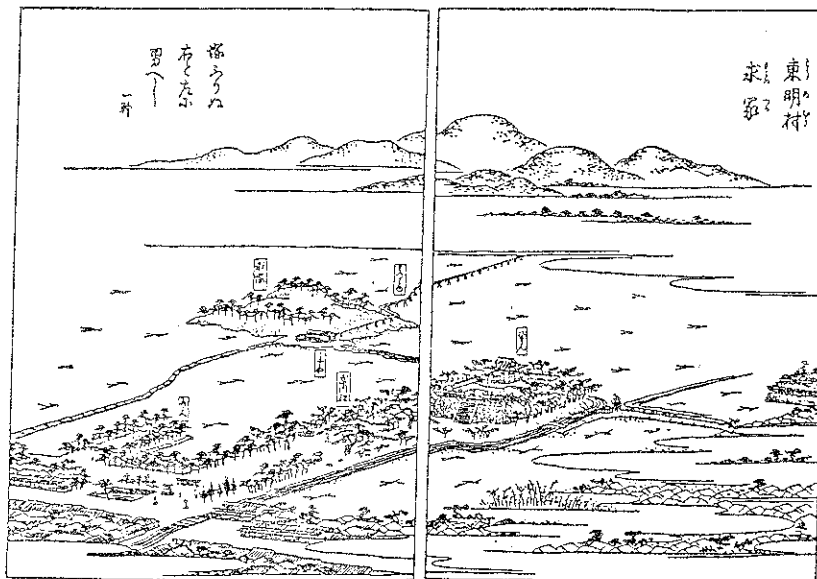
⑰ 深田池公園（御影山手1丁目）

今は憩いの場所になっているが、元々は近くにあった浅田池・泥田池などと共に溜め池であった。平野城の堀の役目も果たしていたと思われる。深田はフケダ＝湿地帯の地名＝からきていると思われる。泥田池の名と共にこの辺りは湿地帯であったと思われる。

⑱ 御影公会堂（御影石町2丁目）

昭和8年に白鶴酒造の嘉納治兵衛の寄付金によって、武庫郡御影町の公会堂として建てられた。昭和20年の空襲で被害を受け、昭和25年御影町が神戸市編入後、市の手で改修され、昭和28年に再開した。

（望月 浩）



〈摂津名所図会より〉

## 旧住吉村史跡散歩

(旧住吉村=明治22年4月1日に近世の住吉村がそのまま住吉村になり、昭和25年4月1日に神戸市と合併)

### ① 東求女塚古墳(住吉宮町1丁目)

前方部を北西に向けた、古墳時代前期の前方後円墳。全長80mの古墳であったが、1904(明治37)年に阪神電鉄の鉄道敷設の土取りで前方部は消滅し、後円部は、1955(昭和30)年に削平された。明治から大正にかけて古墳の破壊と共に、遺物採集も行なわれ、銅鏡・車輪石・木片などが発見されている。また、1982(昭和57)年に発掘調査され、土師器・須恵器なども出土している。

### ② 本住吉神社(住吉宮町7丁目)

祭神は、表筒男命・中筒男命・底筒男命・神功皇后。創建は、伝説によると神功皇后が朝鮮遠征の帰り、難波近くで船が止まってしまったので、原因を占ってみると、表筒男命・中筒男命・底筒男命の三神があらわれ、「大津湊中倉之長峽に住吉三神を祀れば航海を安全にしよう」といった。そのために祀られたのが、今の本住吉神社で、大阪の住吉大社はここから分家したものだといわれている。

さざれ石…境内にあるさざれ石と呼ばれる石の上部のくぼみには、雨が降っても決して水がたまりまらぬといわれている。しかし、6月頃になると、水が湧きだしてたまるといわれている。現在は地中に埋もれている。

### ③ 阿弥陀寺(住吉本町2丁目)

浄土宗で、本尊は阿弥陀如来。寛永14年(1637)に天誉上人が開基した。その後、火災にあって中断したが、安永9年(1780)に勇誉上人によって再興された。明治22年最初の住吉村の村役場はこの寺の境内にあった。

法然の松…建永2年(1207)法然上人は、土佐の国に流されることになった。京を出て船で降る途中、神戸市の今の脇浜近くで大雨にあい、海岸の松の下で雨宿りをした。その松は年がたつと枯死したが、その枯れ木の一端が住吉の海岸に漂着した。そこで村人は阿弥陀寺の境内に安置した。

### ④ 若宮八幡神社(住吉山手5丁目)

祭神は応神天皇。神も、人間と同様に子供を産むという観念から、御子神を祀る風習ができた。若宮は本宮ないし親神に対する新宮、御子神のこと。しかし、民間の若宮信仰は、非業の死をとげたものの霊、まだ神霊に昇華しきれない靈魂を若宮と呼んでいるところが多い。

### ⑤ 徳本寺(住吉山手6丁目)

浄土宗で、本尊は阿弥陀如来。寛政10年(1798)呉田の吉田道可に招かれた徳本上人は、赤塚山に庵を建てて、弓弦羽の滝で修行をしながら、村人たちに念仏を唱えたと極楽往生できると説いた。現在の徳本寺は、大正6年に徳本上人百回忌を記念して建てられたものである。

徳本上人…宝暦8年(1758)紀州日高に生まれ、25、6才の頃、仏門に入る。30才の頃から6ヶ年を大和吉野の山中、紀州須が谷山頂で難行苦行の生活をして、修験的な力を創成した。後に徳本行者と呼ばれた。以来、諸国を巡錫して各地に念仏講を広めていった。

名号塔…阿弥陀如来をたたえる「南無阿弥陀仏」を名号、または六字名号と呼んでいる。一遍上人が名号を本尊とするようになった。浄土宗・浄土真宗・時宗が主に使用している。徳本

寺の名号塔は文政9年(1826)に吉田道可が建てたものである。徳本上人独特の葛名号である。

吉田道可…享保19年(1734)～享和2(1802)の人。名は敬。通称、喜平次。先祖は南朝の内大臣、吉田定房。三男の幸麿が自分の莊園だつた住吉に逃れ、そのまま住みついた。江戸時代には、農業・酒造業・精油業などを営み、千石船で回船業なども行なっていた。道可は、和歌・書・儒学・茶道などを学び、文人との交流も広がった。

⑥ 赤塚山(住吉山手)

六甲山は修験者の行場として、あちこちで行を行なっていた。赤塚山もそのひとつで、行者堂もその名残のひとつである。修験道は、原始的の山岳信仰と仏教の密教的信仰とが合わさった宗教。山岳に登り、修業をつみ呪力を体得し、それに基づき加持祈禱をする。奈良時代の役小角(役行者)を初祖とする。

⑦ 柿の木地蔵(住吉山手3丁目)

高さ約80cmで、すぐ側に柿の木があることからこの名がついた。大正10年頃、牛車を引いていた人がこの地蔵に牛を結びつけて休んでいたところ、突然牛が暴れだし、地蔵は倒れ首の所から折れてしまった。後に地元の人々が再建した。台石はもっと古く、「日本廻国、本願主相州小田原定吉」「村安全往来安全、嘉十郎」「武州勗勇山、相州小田原同口尼」「嘉永六年丑正月廿二日」の銘文があり、江戸時代の末に建立されていたことがわかる。

⑧ 火伏地蔵(住吉山手6丁目)

徳本寺の境内の隅にある。元は、徳本寺の西の坂道を少し上ったところに愛宕地蔵尊として祀られていた。住吉村を火災から守ってくれるといわれ、信仰を集めてきた。蓮華座の上に立ち、舟型光背に浮き彫りにしている。右手には錫杖、左手には宝珠をもっている。

⑨ 小林墓地の石仏(住吉山手2丁目)

小林墓地の北の入り口に、石垣に埋め込まれている。左端の石仏に「文禄三年道源禅門二月□日」と銘文が見られる。現在わかっている東灘区内最古の在銘の石造遺品である。従来寄せ集めの六地蔵といわれてきたが、像容を見るかぎり、観音仏ではないかと思われる。

⑩ 庚申塚(住吉本町3丁目)

小林墓地の東の道を南へおりて、阪急電車のガードをくぐったところにある。マンションの建ち並ぶ中、土盛りの塚がある。この塚が庚申塚で、元来前方後円墳の後円部分であったといわれている。塚の上の石碑には、正面に「南無聖面金剛童子」、向かって右に「庚申講中立之」、左に「寛永年中前横田五兵衛新築此塚也 宝永二乙酉秋天同名孫此石碑建也」と刻まれている。庚申信仰とは、60日に一度回ってくる庚申の日(十干十二支の一つ)に夜を寝ずに過ごす信仰のことである。これは、人の身体の中にある三尸という虫がこの日に人が眠ってから体内から抜け出して、天帝にその人の日頃の罪悪を告げるために、その日は眠らずに起きているという信仰である。

(望月 浩)



## 旧魚崎町史跡散歩

(旧魚崎町＝明治22年4月1日に、魚崎村と横屋村が合併して魚崎村になった。後に大正3年5月1日に魚崎町になる。昭和25年4月1日に神戸市に合併。)

### ① 覚浄寺(魚崎南町7丁目)

浄土真宗西本願寺末。開基・創立年代は不詳。本尊は阿弥陀如来。現在の本堂は、延享3年(1746)の建築である。境内に「明治6年魚崎小学校開校の地」の碑がある。明治6年(1873)9月から明治16年(1883)7月25日までの9年8ヶ月の間、覚浄寺の庫裡を利用して勉強していた。

### ② 永思堂(魚崎南町7丁目)

覚浄寺の西北隅にある。家型の石の祠で、山崎闇斎ら4人を祀っている。明治31年に建てられたもの。山本復斎の兄長貴が、元禄11年(1698)に母を追慕し、弟復斎と共に孝道を明らかにする目的で建てたものがはじめである。

山本復斎…江戸時代中頃の儒学者。延宝8年(1680)に魚崎の酒造家に生まれる。17才の時、浅見綱斎の門下になる。46才の時に「雀松精舎」をつくって子弟の教育にあたった。享保15年(1730)に死去。

### ③ 魚崎八幡神社(魚崎南町3丁目)

旧魚崎村の氏神。祭神は、応神天皇。元々は、雀の松原の地にあり、雀神社と呼んでいた。境内には、酒樽業者から寄進された手水石や、酒造業者からの石灯籠がある。本殿の裏には、神功皇后が朝鮮出兵の帰りに、船をもった浜辺の松の名残といわれている「神依りの松」の松の切り株がある。境内北の児童公園のなかに、旧魚崎町の道路元標がある。

### ④ 山邑家住宅(魚崎南町4丁目)

江戸末期の民家建築。部屋は8室に分かれ、土間出入口の左手に、奥に向って口の間・二の間・奥の間が並び、その背面に中の間・居間・納戸が続き、さらにその奥に台所と板間の二室がある。また、土間の右手には炊事場・洗い場・使用人室などがある。

### ⑤ 雀の松原(魚崎西町4丁目)

昔、魚崎一帯が松林だったことを伝える史跡。「雀の松原」の地名は、古来からの書物によくでてくる。

「千代に替わらぬ翠は、雀の松原、みかげの松、雲居にさらすぬのびきは…」

(源平盛衰記)

「葦屋の松原、雀の松原、布引の滝など御覧じやらる…」

(増鏡)

「一族手勢二百余騎、雀の松原の木陰に控え…」

(太平記)

「滝川左近(中略)西宮、いばら住吉、あし屋の里、雀が松原…」

(信長公記)

この松原にたくさんの雀がいた頃、3年に一度ぐらい丹波の雀と大合戦をしていた。年によっては、こちらから丹波の方へ攻撃にいったという。この雀合戦を見に遠くから人がやってきた。その見物客を相手に、戦いで死んだ雀を焼いて商売をする村人もでてきた。この焼き雀は、江戸時代には名物になっていた。

この辺りは、佐才郷と呼ばれ雀部朝臣という豪族が住んでいたことから、雀部氏の松原→雀の松原に変化したものと思われる。

なお、魚崎西町の広場に、

「竹ならぬかげも雀のやどりとはいつ名にしめし松はらの跡」中納言公尹  
「杖とめて千代の古塚とへよかしここやむかしのすゝめ松原」よみびとしらず  
の歌碑が残っている。

## ⑥ 魚崎の地名

古くは五百崎と呼ばれていた。応神天皇の頃、伊豆国から献上された「枯野」という船が老朽化してきたので解体した。その材料を燃料とし、海水を焼いてたくさんの塩をつくった。そこで諸国に船を献上させ、変わりにこの塩を与えることにしたところ、集まった船が五百艘になった。そこで船が集まったところを五百崎というようになったという。また、神功皇后が朝鮮に遠征に行くときに、この地で軍船を集めたところ、五百艘集まったので五百崎と呼ぶようになったという。後に、この地の漁師たちが不漁つづきのため、地名を変えてほしいと願い出たところ、許可されて魚崎になったという。

### ◇旧魚崎町の昔話◇……………

雀の松原で、「雀茶屋」という焼き鳥屋がよくはやり、旅人がおおぜい訪れるようになった。その旅人を目当てに、いつの頃からか「雀宿」という旅人宿ができた。ある時、この宿にお花という女中がいた。お花は丹波の生まれで、両親と死別し、遠縁にあたる横屋の農家を頼ってやってきて、良い仕事ができるまでこの宿屋で働くことになったのである。お花はよく働き、「雀宿のお花」といえばかなりの有名な人気者となった。ある年の秋の夕暮、一人の旅の老僧が雀宿で一晩を明かすことになった。この老僧は、岡山のある寺の住職で、京都の本山へ本山改築の資金二百両を持っていく道中であつた。人々が寝しずまった頃、二人の浪人風の男が雀宿にやってきた。男たちは、「先刻ここへ、老僧が泊まったと思うが、あの僧とは姫路から道連れになった。途中、所用を果たしていたので一足遅れて今ついた。京へ上るのは初めてなので、道中の勝手がわからず心細く思っていた矢先、京に詳しいあの僧と道連れになって喜んでいる次第、それで我々もこの宿で今夜は泊まろうと思う」と言った。夜もふけて、お花がその二人連れの男の部屋の前を通ると、「坊主を殺せば、七代たたとかであんまり気持ちのよいものではないな」「気の弱いことを言うな。あの胴巻の二百両を見逃せるかい」と言った話し声が聞こえてきた。この話を聞いて、お花はぞっとした。やがて何かを思いついたお花は、子守をしていた主人の子供を抱いて、老僧の部屋の前で子守歌を唄った。この子守歌で目を覚ました老僧が、聞くともなしに耳をたてていると、「琴の下だけおいといて、草の、そうこう取って、山の上に山を書く」とくりかえし聞こえてきた。老僧は、妙な唄があるものだと考えていたが、はっと気がついた。琴の下だけ置いておくと、「今」になる。草の上の草冠を取ると、「早」という字になる。山の上に山を書くと、「出」になる。なるほど、「今、早う、出よ」と言うのかと理解をして、旅支度をして早々に京を目指して出発した。身の危険を教えてくれたお花に感謝をしながら、京で無事に二百両を納めた老僧は、故郷への帰り道、命の恩人のお花への心ばかりのお礼のしるしにと、京で買ったかんざしを持って再び雀宿へと立ち寄った。しかし、お花はこの世にいなかった。高熱にうなされながらも、老僧の身を案じていたということであつた。老僧は言葉もなく、仏前にかんざしを供え霊を弔った。やがて老僧は、近くのお堂でお花の霊を祀り続けたという。

『魚崎町誌』より

(望月 浩)

# 旧本庄村史跡散歩

(旧本庄村＝明治22年4月1日、深江・青木・西青木村が合併して本庄村に。昭和25年10月1日に神戸市に合併。)

## ① 稲荷筋

阪神電車の深江駅の東側の南北に走る道路。森の稲荷神社へ通じる道なのでこの名がついた。

## ② 札場筋

東灘小学校の西の南北の道路をいう。札場筋と旧浜街道の交差するところに、江戸時代に高札(放火・切支丹・毒薬・徒党・鉄砲使用などの禁制や人馬賃銭などに関する)ことがらが公示されたもの)が立てられていたという。

## ③ 大日靈女神社(深江本町3丁目)

文明13年(1481)に薬王寺の住職観空が蓮如に帰依し、真言宗であったお寺を浄土真宗に改宗した。その時に本尊も大日如来から阿弥陀如来に改めたため、大日如来を村人がおまつりしたのが、創建だといわれている。境内には「深江史の庭」として、いろいろな記念碑や石碑を置いている。古いものでは、正徳2年(1712)寄進の高橋川の石橋の一部や元禄7年(1694)、享保11年(1726)の年号が刻まれた石灯籠の竿の部分がある。

## ④ 踊り松地蔵(深江本町3丁目)

踊り松付近や高橋川の改修工事の時に出てきた近世の一石五輪塔や石仏を集めている。

## ⑤ 踊り松(深江本町4丁目)

むかし、神戸商船大学養正館のあたりに、松の大木があった。この松の根元付近に、森の稲荷神社のご神体が流れつき、村人が踊って迎えたという話や、洪水の時に森の稲荷神社からご神体が流れついたところなので喜んで踊ったという話から、踊り松の名がついたといわれている。

## ⑥ 正寿寺(深江本町3丁目)

元々は、薬王寺という真言宗のお寺があった。文明年間に、浄土真宗に改宗。寺名も延寿寺と改名。その後、寛永10年(1633)に深江の永井三左衛門が出家し、永井山正寿寺と改名した。

## ⑦ 進徳丸(深江本町5丁目)

大正12年(1923)に神戸三菱造船所で造られた。最初は、神戸高等商船学校(今の神戸商船大学)の練習船で、鋼鉄帆船であったが、後に昭和19年に汽船に改装された。現在は、神戸商船大学海岸運動場に保存され、一般公開されている。

## ⑧ 魚屋道の碑(深江北町3丁目)

江戸時代初期には利用されていたという、有馬と神戸の市街地を結ぶ六甲越の交通路。深江の浜でとれた魚を有馬へ運んだので魚屋道と呼んだ。江戸時代には、抜け荷の道といわれ、小浜(宝塚市)・生瀬(西宮市)などの宿駅と東灘地域の村々と争論があった。

## ⑨ 春日神社(北青木)

旧西青木村の氏神。祭神は、天児屋根命。境内には、昭和13年の阪神大水害の記念碑がある。碑

の裏面には、「7月5日阪神間六甲山麓ヲ襲ヒタル水災ハ天井川ヲ氾濫セシメ遂ニ西青木全区五百餘戸ニ甚大ナル水禍ヲ及ボセリ…」と刻まれている。

⑩ 八坂神社（青木5丁目）

旧青木村の氏神。天保11年（1840）の創建。素盞鳴命が祭神。境内に旧本庄村道路元標がある。これは、明治になってから作られたもので、村から村へと道路に沿ってどれだけの距離があるかを正確に測ったときに、その目印として置かれたものである。

⑪ 青木の地名

保久良神社の神様が、青い海亀に乗ってこのあたりに漂着したことから青亀といった。これが後に、青木に変化したといわれている。

⑫ 元本庄村役場（青木4丁目）

昭和4年8月に完成した。鉄筋コンクリート造り2階建て。昭和25年10月に神戸市合併後は、区役所の本庄出張所となった。昭和33年2月からは、本庄公民館として利用されている。

⑬ 山の神の祠

山の神は、春には山からおりてきて田の神になり、秋に稲を実らせたあと、山に帰っていくと人々から信仰されている。深江から有馬へ続いている魚屋道の途中、風吹岩の南に深江地区の人が信仰している山の神の祠がある。安政5年（1858）の文字が刻まれている。

⑭ 深江北町遺跡（深江北町2丁目）

昭和59年10月～12月、61年3月～5月にかけて発掘調査が実施され、弥生時代末期（2～3世紀）の円形周溝墓や奈良～平安時代の集落と水田跡が見つかった。周溝墓とは、周囲に方形または円形に溝をめぐるせた低い墳丘を有する墓である。現在は県営住宅になっていて、現場には記念碑が、また遺跡の模型が神戸深江生活文化史料館に展示されている。

⑮ 本庄共同墓地（深江北町5丁目）

旧深江・青木・中野・山路の村々の共同墓地。室町時代のもと思われる宝篋印塔が現存している。第2次大戦の空襲によって墓石が黒く焼けただけれているものもある。

◇旧本庄村の昔話……………

大日靈女神社の境内に「深江史の庭」として、歴史を物語るいろいろな石造物を置いている。その内の一つに、長さ1m、高さ50cmほどの石があり、「奉寄進 石橋 正徳二壬辰歳 四月八亦 深江村 喜次郎」と刻まれている。この石には、次のような話が残っている。

昔江戸時代に、網屋の喜次郎という人が深江に住んでいた。深江で漁をしていたが、ずっと不漁が続いて生活に困り、正徳年間（1711～1715）頃に他所で一旗あげようと思い、荷物をまとめて村を出る決心をした。高橋川の橋の辺りまで来たところ、浜の方が大変賑わっていた。喜次郎が目をごらして浜を見てみると、うなぎの大群が浜に押し寄せていて、村人がそれを捕まえるために大騒ぎをしていた。これを見た喜次郎はいそいで家に引き返し、村人に加わってうなぎを捕まえた。これで一息ついた喜次郎は、それから漁を続けたところ、大漁が続いて金持ちになった。それから喜次郎は、自分の足を止めて幸運をもたらした橋に感謝して、正徳2年（1712）4月8日に立派な石橋にかけかえた。この橋は、昭和の初めごろまであった。その一部が記念に境内に残っている。

（地元伝わる話から）

（望月 浩）

## 旧本山村史跡散歩

(旧本山村＝明治22年4月1日に、田中・岡本・野寄・中野・田辺・小路・北畑・森村が合併して本山村に。昭和25年10月10日に神戸市と合併)

### ① 森稻荷神社（森北町4丁目）

社伝では、靈龜元年（715）卯月卯日の夜に、深江の沖に光が輝いた。村人は不思議に思い海辺に集まると、一基の神輿が現われた。そして、「私は、稻荷大明神である。この山手の森かげに祀れば里人を幸せに守ろう。」と言った。そこで村人たちは、現在の地に祀るようになった。長い間保久良神社と共に本庄九ヶ村（深江・青木・森・中野・田辺・小路・北畑・津知・三条）の氏神であったが、明治5年に県の命令で森・深江・青木の三ヶ村だけが氏子になった。

### ② 朱鳥居と道標（森南町3丁目）

鳥居…昭和2年に建てられたもので、高さは5.8㍎。昭和20年5月11日の空襲では、米軍にとって青木にあった川西航空機甲南製作所（今の新明和工業）が攻撃目標のひとつであった。このことは5月5日に撃墜されたB29の飛行士が持っていた航空写真からすでに知られていた。その写真には、11日の川西航空爆撃計画の付近の目印として朱鳥居が記入されていた。

道標…朱鳥居のすぐ南西にある。「稻荷之社従是三町」の銘がある。革命紀行（江戸時代の狂歌師大田南畝＝蜀山人が文化元年(1804)に長崎へ長崎奉行支配勘定役として赴任する際の旅行記）にも「稻荷之社自是三丁」とある。

### ③ 山路城（田中町付近）

御影にあった平野城と同様に、南北朝時代に築かれた赤松氏関係の城であったと思われる。『摂津志』には「山路城 在田中村 観応年間 赤松範頭拠此」とある。現在の地形から城跡はうかがえないが、池ノ内・城ノ前・的場などの地名が城のあったことをしのぼせてくれる。現在の本山中学付近が本丸で、手水公園が二の丸であったといわれている。なお、ここは普段の居館で北方の五百山に“戦時の城”があったといわれている。山が開発されたときに、古井戸と、甲冑が見つかったという。

### ④ ヘボソ塚（岡本1丁目）

旧岡本字マンパイにあった古墳時代前期の前方後円墳。「岡本のオサバに立てるヘボソ塚、布織る人は岡本にあり」という唄が伝えられているが、その意味は不明である。現在東京国立博物館に保存している出土品のなかに、古鏡6点があるが、それが中国からの舶載鏡なので、オサバ、マンパイの地名も、中国からの渡来人に関する地名かもしれない。オサバ＝箆場、マンパイ＝万梅という字をあてる説もある。

### ⑤ 岡本の梅林（岡本6丁目）

岡本6、7丁目あたりは、江戸時代には「岡本梅林」として『摂津名所図会』に記載されている名所であった。「梅は岡本、桜は生田、松のよいのが湊川」という唄もうたわれていた。

### ⑥ 西光寺（本山北町5丁目）

浄土宗で、本尊は阿弥陀如来。寺にある観音菩薩は、慶長年間、佐和山城主石田三成の母の念持仏で、合戦の際敵の矢の攻撃を受けたが、この観音が身代わりになったという。また、境内の隅にある五輪塔・石仏の群のなかに、青木から移されたといわれるキリシタン灯籠の竿がある。

⑦ 大日女尊神社（西岡本4丁目）

創建年月日は不詳。祭神は大日女尊・素盞鳴尊。むかし、住吉川の洪水の時に深江まで神社が流された。深江で祀っていたところ（大日靈女神社）、神様が「野寄に帰ろう、野寄に帰ろう」といったので、今の地に祀り直したという話が残っている。

⑧ 鷺宮八幡神社（本山北町6丁目）

旧北畑村の氏神。むかしは、この神社の辺りはかなり樹木が茂っていて、鷺の森と呼ばれていた。鷺の森の名残として、榎の大木が一本残っている。樹齢800年といわれ、高さ20㍍ほど、周囲は5㍍あり、神戸市の保護樹木に指定されている。むかし、村人はこの木の枝にカラスがとまって鳴くと、その声に耳を傾けた。カラスが長く、「カーアー、カーアー」と鳴くと、必ず村のなかに不幸があると信じられていたからである。

⑨ 中野八幡神社（本山北町4丁目）

旧中野村の氏神。1月15日には昔から弓の神事が行なわれている。毎年トウヤという家が順番で決められる。そのトウヤの家から弓・矢・的・お供えなどを持ち、神社で参拝する。参拝したあと、境内の木に的をかけ数本の矢を放つ。

⑩ 小路八幡神社（本山北町5丁目）

旧小路村の氏神。小路の地名は中世の荘園の荘官「荘司」から起こったと思われる。なお、境内のすぐ下に流れている川に、「臼井橋」という橋があるが、源頼光（源満仲の子）の四天王の一人といわれている碓井貞光の子孫、臼井氏からきている。

⑪ 保久良神社（本山町北畑）

延喜式に載る古社。祭神は素盞鳴尊・大国主尊・椎根津彦尊など。5月5日の例祭には氏子地（北畑・中野・小路・田辺）からダンジリが出て賑わう。社殿の周辺には磐座信仰の名残と思われる巨石がいくつか見られる。またこれは、日本庭園の源流という説もある。境内からは、弥生時代の石器・土器も出土している。

灘の一つ火…鳥居前にある常夜灯。古来から沖をいく船の夜の目印とされてきた。伝説では、日本武尊が熊襲（今の九州）遠征から帰る途中、大阪湾で夜になり、航路がわからなくなった。神に祈ったところ、北の山の上の一つの灯が見えた。それを頼りに船を進めたところ、無事に難波へ帰ることができた。それがこの灯のおこりだという。現在は文政8年（1825）に建立された石灯籠に、電灯をつけて東灘の町を照らしている。

⑫ 琴の橋（本山中町2丁目）

本山の中野の地にかつて、溝滝川という細い川があった。西国街道がこの川をわたるところに大きな石でできた橋があった。大名行列がこの橋を渡ろうとすると、橋の下から琴を弾く音が聞こえてきた。また、橋の石の裏側には、和歌が刻まれているという人もいた。この橋も大正年間の国道工事の時になくなったという。

（望月 浩）

# 年表でみる東灘と日本の歴史

	東灘の歴史		日本の歴史
【先史・古代】 洪積世 (200万年前 ～1万年前)  縄文時代 (1万年前～ B.C.3・2世紀)  弥生時代 (B.C.3・2世紀 ～2・3世紀)  古墳時代 (3世紀後半～ 7・8世紀)  大和政権の 国土統一期	東ノ平遺跡(住吉)	【先史・古代】 約200万年前	洪積世の日本 (明石原人・岩宿遺跡の発見)
		約1万年前	日本列島の形成
	本庄遺跡・北青木遺跡など (井戸田遺跡?)	B.C.3・2世紀	縄文時代
	北青木遺跡・坂下山遺跡 森北町遺跡・保久良神社遺跡 荒神山遺跡・深江北町遺跡など 渦ヶ森銅鐸・森銅鐸・生駒銅鐸	0	弥生時代
	(前)ヘボソ塚・東求女塚・処女塚 (中)伊賀塚? (後)生駒群集墳・八幡谷古墳 岡本梅林群集墳・坊ヶ塚古墳 住吉宮町遺跡	57	倭の奴国王、後漢の光武帝より 金印を授かる
		239	卑弥呼が魏に遣使
		4世紀中頃	大和政権が国土を統一
		478	倭王武(雄略天皇)の上表文
		538	仏教公伝
		562	任那日本府の滅亡
	603	冠位十二階	
	604	十七条憲法	
葦屋漢人・大和連・雀部朝臣・ 住吉朝臣などの豪族が東灘を支配	607	小野妹子を隋に派遣(遣隋使)	
	645(大化1)	大化改新	
	663	白村江の戦い	
	672	壬申の乱	
	701(大宝1)	大宝律令	
夙川から生田川までを摂津国 ← 菟原郡と称する	710(和銅3)	平城京遷都	
	794(延暦13)	平安京遷都	
	11世紀	藤原氏全盛時代(道長・頼通)	
1120(保安1)	『摂津国大計帳』菟原郡 437戸15,695人とある	1086(応徳3)	白河上皇、院政開始
		1156(保元1)	保元の乱
		1159(平治1)	平治の乱 → 平氏政権へ
【中世】		【中世】	
1180(治承4)	8月10日に左大将実定が雀の松原 御影の松を訪ねる場面が『源平盛 衰記』に登場	1167(仁安2)	平清盛、太政大臣になる
		1180(治承4)	以仁王、平氏追討の令旨(源頼政 挙兵) 福原京遷都(神戸が日本の首都に) 源頼朝、伊豆で挙兵 源義仲、木曾で挙兵
		1181(養和1)	平清盛没
		1183(寿永2)	平氏都落ち、源義仲入京
1184(寿永3)	2月5日源頼朝が雀の松原・御影 ← の松あたりに陣を置く	1184(寿永3)	一ノ谷の戦い

	東 灘 の 歴 史		日 本 の 歴 史
		1185(文治1)	屋島の戦い 壇の浦の戦い⇒平氏滅亡 守護・地頭の設置
		1192(建久3)	源頼朝、征夷大将軍となり鎌倉幕府を開く
		1219(承久1)	源実朝暗殺⇒執権北条氏が実権を握る
		1221(承久3)	承久の変⇒公武二重支配の解消
		1232(貞永1)	御成敗式目制定
		1274(文永11)	文永の役 } 元寇
		1281(弘安4)	弘安の役 }
		1297(永仁5)	永仁の徳政令
		1324(正中1)	正中の変
		1331(元弘1)	元弘の変⇒後醍醐天皇、隠岐へ流される
1332(元弘2)	『増鏡』に流される天皇が雀の松原を見る箇所がある	1333(元弘3)	鎌倉幕府滅亡
		1334(建武1)	建武中興
		1335(建武2)	中先代の乱
1336(建武3)	打出合戦(尊氏敗北)⇒『太平記』に処女塚の新田義貞小山田高家奮戦の様子が描かれる	1336(建武3)	湊川の戦い
1337(建武4)	赤松範資が摂津国守護になり東灘を支配		建武式目
		1338(暦応1)	足利尊氏、征夷大将軍となり室町幕府を開く
		1350(観応1)	観応の擾乱(尊氏V.S.直義)
1351(観応2)	打出・御影浜の戦い(観応の擾乱)		
1378(永和4)	細川頼基が摂津国守護になり東灘を支配		
		1392(明德3)	南北朝合一
		1404(応永11)	日明貿易開始
		1441(嘉吉1)	嘉吉の乱(六代義教暗殺)
		1467(応仁1)	応仁の乱はじまる
		1485(文明11)	山城の国一揆
		1488(長享2)	加賀一向一揆
1505(永正2)	平野秀満が平野山忠勝寺を開く		
		1543(天文12)	鉄砲が種子島に伝来(ポルトガル船による)
1544(天文13)	三好長慶が細川氏を討ち摂津国を支配する	1549(天文18)	ザビエルが来日しキリスト教を伝える
1564(永禄7)	三好長慶から松永久秀に支配がかわる		
【近世】		【近世】	
16世紀後半	荒木村重(伊丹城を本拠)が摂津守として東灘一帯を支配	1560(永禄3)	桶狭間の戦いで織田信長が今川義元をやぶる
		1573(天正1)	室町幕府滅亡(将軍義昭を追放)
		1575(天正3)	長篠の戦い(信長が鉄砲を使用し武田勝頼をやぶる)



	東灘の歴史		日本の歴史
1578(天正6)	荒木村重、信長に対して謀叛 ⇒信長勢が東灘近辺に陣を置く	1582(天正10)	本能寺の変(信長自害) 山崎の合戦で豊臣秀吉が明智光秀をやぶる
1583(天正11)	東灘ほぼ全域が豊臣領となる ←	1590(天正18)	太閤検地はじまる
	関ヶ原の戦い以後、片桐且元(← 茨木城主)が東灘を支配	1600(慶長5)	秀吉、天下統一
		1603(慶長8)	関ヶ原の戦い(徳川家康が石田三成をやぶる)
		1603(慶長8)	徳川家康、征夷大将軍となり江戸幕府を開く
		1614(慶長19)	大坂冬の陣
		1615(元和1)	大坂夏の陣⇒豊臣氏滅亡 武家諸法度、禁中並公家諸法度制定
1617(元和3)	↓ 東灘は尼崎藩主戸田氏鉄の所領となる(5万石)		
1635(明正12)	青山幸成が尼崎藩主となり東灘を支配(以下3代青山氏、5万石)	1635(明正12)	武家諸法度改正(参勤交代制確立)
		1637(明正14)	島原の乱
		1639(明正16)	鎖国の完成(ポルトガル船の来航禁止)
		1687(貞享4)	生類憐れみの令を出す(徳川綱吉)
1711(正徳1)	松平忠喬が尼崎藩主となり東灘を支配(以下6代松平氏、5万石)	1709(宝永6)	正徳の治(～1715)
1754(宝暦4)	酒の勝手造り許可⇒灘の酒造業が本格化	1716(享保1)	享保の改革(徳川吉宗、～1745)
		1767(明和4)	田沼時代(田沼意次、～1786)
1769(明和6)	明和6年の上ヶ地令 ⇒尼崎藩領であった東灘の大部分は天領となる	1787(天明7)	寛政の改革(松平定信、～1793)
		1793(寛政5)	大御所時代(徳川家斉、～1841)
1806(文化3)	魚屋道をめぐる訴訟がおこる		
1827(文政10)	ドビワリをめぐる訴訟がおこる	1841(天保12)	天保の改革(水野忠邦、～1843)
		1854(安政1)	日米和親条約⇒鎖国の終わり
		1858(安政)	日米修好通商条約⇒兵庫開港を決定
		1866(慶応2)	薩長同盟
1867(慶応3)	↓ 兵庫開港⇒徳川道完成(東灘の石屋川起点)	1867(慶応3)	大政奉還(徳川慶喜)
		1868(慶応4)	王政復古の大号令⇒江戸幕府滅亡 神戸事件
【近・現代】		【近・現代】	
1868(明治1)	旧天領の村々…兵庫県となり伊藤博文が初代知事となる 尼崎藩領の村々…尼崎藩がそのまま支配	1868(明治1)	明治維新 ・戊辰戦争(～1869) ・五箇条の五誓文、五榜の掲示、政体書発布 ・東京遷都

	東 灘 の 歴 史		日 本 の 歴 史
1871(明治4)	廃藩置県により尼崎藩は尼崎県←となり、11月に兵庫県に吸収される	1869(明治2) 1871(明治4)	版籍奉還 廃藩置県
1874(明治7)	神戸～大阪間に鉄道が開通し、住吉駅が開業	1873(明治6) 1874(明治7)	徴兵令、地租改正 民撰議院設立建白書
1878(明治11)	東灘は兵庫県の一画として菟原←郡とされ住吉村に郡役所を置く	1877(明治10) 1878(明治11)	西南戦争 郡区町村編成法制定
1886(明治19)	摂津灘酒造組合結成→灘五郷と称する	1881(明治14) 1885(明治18)	明治14年の政変→国会開設の勅諭 内閣制度発足(第一次伊藤内閣)
1889(明治22)	市制・町村制の施行により、東灘区旧五ヶ町村の誕生(御影町、住吉村、魚崎村、本庄村、本山村)	1888(明治21) 1889(明治22)	市制・町村制公布 大日本帝国憲法発布(黒田内閣) 東海道本線全通(東京～神戸)
		1890(明治23)	帝国議会開設 郡制公布
1896(明治29)	武庫郡設置(もとの武庫・菟原・八部の三郡の領域に新設)	1894(明治27) 1895(明治28)	条約改正(治外法権撤廃) 日清戦争勃発 下関条約→三国干渉
1905(明治38)	阪神電気軌道株式会社(阪神電車)開通→東灘に石屋川・御影・住吉魚崎・青木・深江の駅を設置する	1902(明治35) 1904(明治37) 1905(明治38)	日英同盟成立 日露戦争(～1905) ポーツマス条約
1920(大正9)	阪神急行電鉄株式会社(阪急電車)開通→東灘に御影・岡本の駅を設置する	1911(明治44) 1914(大正3)	条約改正(関税自主権回復) シーメンス事件 第一次世界大戦勃発(～1918)
1924(大正13)	この年から谷崎潤一郎が東灘にすむ	1918(大正7) 1919(大正8)	米騒動 パリ講和会議
1927(昭和2)	阪神国道(2号線)、阪神国道電車が開通	1923(大正12)	関東大震災
1938(昭和13)	阪神大水害→住吉川・石屋川が大氾濫	1931(昭和6) 1932(昭和7) 1933(昭和8) 1936(昭和11) 1937(昭和12)	満州事変勃発 五・一五事件 国際連盟脱退 二・二六事件 日中戦争(～1945)
1945(昭和20)	5/11 6/5.7 8/5.6 東灘近辺が空襲にあふ	1939(昭和14) 1941(昭和16) 1945(昭和20)	第二次世界大戦勃発 太平洋戦争勃発 8/6 広島に原爆投下 9 長崎に原爆投下 15ポツダム宣言受諾→日本無条件降伏
		1946(昭和21)	日本国憲法公布

	東 灘 の 歴 史		日 本 の 歴 史
1948(昭和23)	神戸市が東灘五ヶ町村に対して合併を申し入れる		
1950(昭和25)	4. 御影町・魚崎町・住吉村が神戸市に合併し、東灘区が発足(区役所を御影町役場に置く) 8. 区内初の市バスが阪神御影と甲南病院・神大附小を結ぶ 10. 本庄村・本山村が東灘に合併し、現在の区域になる	1950(昭和25)	朝鮮戦争勃発
1951(昭和26)	合併後、初の市会議員選挙	1951(昭和26)	サンフランシスコ講和条約 日米安全保障条約
1952(昭和27)	国立神戸商船大学開学		
1953(昭和28)	電話局管内の電話が神戸市内扱いになる(078)	1953(昭和28)	テレビ放送開始
1954(昭和29)	阪神御影駅に特急が停車する	1954(昭和29)	自衛隊発足
1955(昭和30)	区役所が住吉に移る		
1956(昭和31)	六甲山系が瀬戸内海国立公園に編入される	1956(昭和31)	日ソ共同宣言 国際連合加盟
1962(昭和37)	灘神戸生協発足		
1963(昭和38)	国道43号線完成	1964(昭和39)	新幹線営業開始 東京オリンピック
		1965(昭和40)	日韓基本条約
1968(昭和43)	現在の区の総合庁舎が完成	1968(昭和43)	小笠原諸島返還
		1970(昭和45)	日本万国博覧会開催
1972(昭和47)	六甲アイランドの造成工事着工	1972(昭和47)	札幌オリンピック 沖縄返還、日中国交回復
1973(昭和48)	区内ではじめて光化学スモッグの被害がでる	1973(昭和48)	オイル・ショック
1974(昭和49)	東灘図書館開館 住吉川清流の道開放		
1975(昭和50)	東灘体育館開館	1975(昭和50)	沖縄海洋博開催
1976(昭和51)	東灘文化センター開館	1976(昭和51)	ロッキード事件
1981(昭和56)	史料館の前身、深江会館生活文化史料室開室	1981(昭和56)	ポートピア81開催
1983(昭和58)	神戸深江生活文化史料館拡張オープン		
1985(昭和60)	ユニバーシアード神戸大会開催、甲南大学がバレーボールの会場になる		
1988(昭和63)	六甲アイランド入居はじまる	1989(平成1)	昭和から平成へ

(道谷 卓)

【東灘の歴史がわかる本】

①東灘区を主に扱ったもの

- ◎山辺真人『東灘歴史散歩』（東灘区役所、昭和55年）
- ・田辺真人『東灘の史跡と木かげ』（東灘区役所、昭和50年）
- ◎宮崎修二郎『文学のおもかげ東灘』（東灘文化センター、昭和61年）
- ◎神戸市民俗芸能調査団『神戸の民俗芸能・東灘編』（市教育委員会、昭和50年）
- ・玉木敬太郎『御影町誌』（御影町役場、昭和11年）
- ・谷田盛太郎『住吉村誌』（住吉村役場、昭和21年）
- ・魚崎町誌編纂委員会『魚崎町誌』（同会、昭和32年）
- ・本山村誌編纂委員会『本山村誌』（本山村、昭和28年）
- ◎本庄村史編纂委員会『本庄村史資料編1～2巻』（神戸深江生活文化史料館、昭和60年～）
- ・仲彦三郎『西摂大観』（明輝社、明治44年）
- ・武庫郡教育会『武庫郡誌』（同会、大正10年）

②その他

- ・落合重信『神戸の歴史』（後藤書店、昭和50年）
  - ◎田辺真人『神戸の伝説散歩』（神戸新聞出版センター、昭和58年）
  - ◎神戸市教育委員会『神戸の史跡』（同会、昭和50年）
  - ・神戸新聞社『神戸の町名』（のじぎく文庫、昭和50年）
  - ◎『兵庫県地名大辞典』（角川書店、昭和63年）
- （◎印は現在でも購入できるもの）

【協力】

東灘区役所広報相談課

【執筆者紹介】

- |    |             |   |
|----|-------------|---|
| 望月 | 浩（もちづき ひろし） | 昭和37年生まれ、花園大学文学部卒業<br>現在、神戸深江生活文化史料館主任研究員 |
| 道谷 | 卓（みちたに たかし） | 昭和39年生まれ、関西大学法学部卒業<br>現在、神戸深江生活文化史料館研究員   |

---

1989 春の特別展 「東灘の歴史」展 解説資料  
**東灘歴史ノート**

発行日 平成元年4月29日

編集・発行 神戸深江生活文化史料館  
神戸市東灘区深江本町3-5-7  
(078)453-4980

---

